

企業の生物多様性取り組み支援 ～研修プログラムの開発～

環境研究部 水生生物グループ

■事業の概要

生物多様性に関する理解を促進するため、企業担当者や教員など、生物多様性の重要性を第三者へ伝える立場にある人物を対象とした生物多様性保全研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」を開発した。

■目的

生物多様性に馴染みが薄い方でも、本プログラムを通して生物多様性に関する教育・指導に取り組むために必要となる生物多様性に関する知識を身につけるプログラムとすることを目的とした。

■特徴

大阪府内の身近な事例を中心に紹介した内容で、WEBで冊子のPDF版、スライド版、実践プログラム*（子ども・地域の方に向けた学習プログラム）を公開しており、利用者は必要に応じて活用できる。

■想定される用途

社内向けセミナーや地域住民を対象に開催するイベント等で用いる資料としての利用

■内容

プログラムの流れ

知る 生物からの恵みと私たちの生活

- 1 日々の食事など、身近な視点から生物多様性と私たちとのつながりを考える。

キーワード: 生態系サービス

日本経団連生物多様性宣言など

知る 生物多様性の理解

- 1 生物多様性を理解する上で重要なキーワードの紹介

キーワード: 生物多様性の3つの階層

生物多様性の4つの危機

レッドリスト

伝える 生物多様性に関する教育・指導の取り組み

- 1 府内の生物多様性の現状紹介
- 1 伝える場面で活用できるプログラム(実践プログラム)の提供
- 1 府内の企業等での生物多様性保全事例の紹介

キーワード: 大阪府生物多様性ホットスポット

おおさか生物多様性パートナー協定

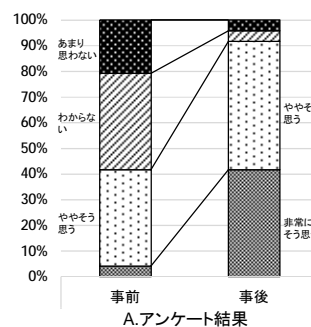
生物多様性保全研修プログラム



大阪府HP「おおさか生物多様性ひろば」で公開中
<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/seibututayousei/index.html>

プログラムによる意識変化

Q.生物多様性を身近なものに感じますか

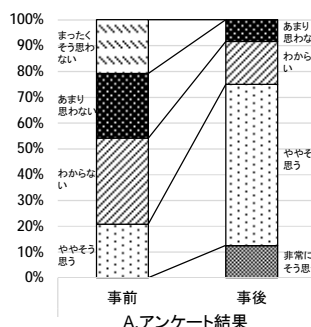


「非常にそう思う」「そう思う」と回答した割合が40%から90%に増加

↓
生物多様性を知ること
意識が変化し、身近に感じられるようになった

(下から順に) ■非常にそう思う □ややそう思う □わからない
■あまり思わない □まったくそう思わない

Q.生物多様性を子供たちや他の人に伝えることができると思いますか



「非常にそう思う」「そう思う」と回答した割合が20%から70%に増加
「まったくそう思わない」が0%に減少

↓
「伝えることができる」という自信が向上した

※ 事前:プログラム実施前、事後:プログラム実施後のアンケート結果

2015年2月20日「おおさか生物多様性セミナー」アンケート結果のうち、これまで生物多様性について学ぶ機会がなかったと回答した人物(N=24)の回答より

企業の生物多様性取り組み支援 ～研修プログラムの開発～

○近藤美麻・山本義彦・上原一彦（環境研究部）

1. 目的

近年、企業における生物多様性保全の取り組みが広がりつつある。しかし、生物多様性は比較的新しい概念であり、その内容は広く一般に浸透していない現状にある。そこで、当研究所では大阪府からの委託を受け、社員や児童など第三者に生物多様性の重要性を伝える立場にある、企業担当者や教員を対象に、生物多様性の理解度を向上することを目的とした生物多様性保全研修プログラム「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」を開発した。

2. 方法

- (1) 「身近に学ぶ生物多様性」をキーワードに、大阪府レッドリスト 2014 において指定された大阪府生物多様性ホットスポットを対象に、現地調査および関係者へのヒヤリングを行い、府内の生物多様性の現状を把握した。
- (2) 当研究所で主催の研修会や、平成 27 年 2 月 20 日に開催された「おおさか生物多様性セミナー」（主催：大阪府）において研修プログラム（案）を実施し、プログラム実施前後に理解度や意識の変化を把握するためのアンケートを行った。
- (3) アンケートの結果をふまえて研修プログラム（案）を改訂し、成果品「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」を開発した。

3. 結果および考察

- (1) 研修プログラムの対象
第三者に生物多様性の重要性を話す機会にある企業担当者や教員、行政担当者などを対象とした。これまでに生物多様性を学ぶ機会がなく、その概念に馴染みが薄い対象者でも、分かりやすく身近なプログラムとすることを目指した。
- (2) 研修プログラムの構成
 - ① 生物からの恵みと私たちの生活
食事など、日々の生活の中にある生物多様性とのつながりを紹介した。
 - ② 生物多様性の理解
生物多様性の 3 つの階層と 4 つの危機、レッドリストについて解説した。
3 つの階層：生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性
4 つの危機：開発など人間活動による危機、自然に対する働きかけの縮小による危機、人間により持ち込まれたものによる危機、地球環境の変化による危機
 - ③ 生物多様性に関する教育・指導の取り組み
大阪府生物多様性ホットスポットを例に、府内の生物多様性の特徴と現状を紹介した。また、私たちが日常でできる生物多様性保全のための行動のほか、府内の企業や学校で生物多様性保全に取り組んでいる事例についても紹介した。
- (3) 「おおさか生物多様性セミナー」でのアンケート結果
プログラムの実施前後でアンケートを行なった結果、「生物多様性を子供たちや他の人に伝えることができる」という問いに対し、実施前では「ややそう思う」が約 20%で、他の 80%は「わからない」「あまり思わない」「まったくそう思わない」と回答したが、実施後では「非常にそう思う」が約 10%、「ややそう思う」が約 60%と回答するなど（「生物多様性について学ぶ機会がなかった」と回答した 24 名）、本プログラムが生物多様性の理解度や、第三者に伝えることができる、という意識変化に寄与したことが明らかになった。
- (4) 研修プログラムの提供媒体
誰でもプログラムを利用できるよう、印刷物としての冊子版のほか、大阪府の HP において冊子の PDF 版、スライド版、実践プログラムが公開されている。